

令和2（2020）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	地域経済学（Regional Economics） 372051-14120					担当教員	鯉江 康正 （コイエ ヤスマサ）		
科目区分	専門科目	必修・ 選択区分	必修	単位 数	2	配当年次	2年次	開講期	後期
科目特性	知識定着・確認型 AL								

① 授業のねらい・概要									
地域経済学は経済理論を基礎とする経済学の応用分野である。都市経済学が主として都市問題を扱うのに対して、地域経済学では都市や農村を含めた地域の問題を幅広く扱う。本講義では土地・住宅問題と交通問題に焦点を当て、地域がどのような課題に直面し、それをどのようにして克服しようとしてきたかを解説し、地域問題を解決するための手がかりを学習する。									
② ディプロマ・ポリシーとの関連									
専門的知識・技能を活用する能力を養う。									
③ 授業の進め方・指示事項									
授業で説明した事項について、長岡市や他の地域を訪問した時に自ら体感し、理解と興味を深めること。また、学修活動を確認するために、課題の提出を求める。									
④ 関連科目・履修しておくべき科目									
「ミクロ経済学」の知識が必要である。									
⑤ 標準的な達成レベルの目安									
(i) 長岡市の総合計画や、都市計画、住宅政策の概要や方向性を理解する。 (ii) 住宅と産業立地、住宅問題と政策、交通問題の理論を理解する。 (iii) プロジェクトを評価するCBAの概要を理解する。									
⑥ テキスト（教科書）									
テキストは使用しない。授業時間にレジュメを配布する。									
⑦ 参考図書・指定図書									
宮尾尊弘（1995）『現代都市経済学 第2版』日本評論社（ISBN4-535-55020-4）									

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・ 実技	授業への 参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	60%		10%			30%		100%
(i) 長岡市の総合計画や、都市計画、住宅政策の概要や方向性を理解する。	10%		2%			5%		17%
(ii) 住宅と産業立地、住宅問題と政策、交通問題の理論を理解する。	40%		6%			20%		66%
(iii) プロジェクトを評価するCBAの概要を理解する。	10%		2%			5%		17%
フィードバックの方法	課題は採点して模範解答を添付し返却する。							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
取り上げたトピックスに対する興味を深める意味でも、自分ならばどうするかを考える機会を増やしていくと共に、課題を出すことによって、学生の理解度を高めていく。

⑩ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）
1	土地問題①（長岡市総合計画）	配布資料	長岡市総合計画で扱われていることの概要を理解し、その基礎となっている土地利用を考える。 30分
2	土地問題②（長岡市都市マスタープラン）	配布資料	長岡市都市マスタープランの概要を理解する。 60分
3	産業と住宅の立地①（産業立地）	配布資料	地域における産業立地を地代との関連から理解する。 60分
4	産業と住宅の立地②（住宅立地）	配布資料	地域における住宅立地を地代との関連から理解する。 60分
5	産業と住宅の立地③（産業と住宅の同時立地）	配布資料	地域における産業と住宅の同時立地を地代との関連から理解する。課題の提出。 90分
6	住宅問題①（需給均衡モデルと不均衡モデル）	配布資料	日本の住宅問題を理解し、需給均衡と不均衡の影響を把握する。 60分

7	住宅問題②（住宅の衰退と再開発）	配布資料	住宅の衰退と再開発について、欧米型と日本型の違いを理解する。課題の提出。	90分
8	住宅政策①（都市住宅政策の概観）	配布資料	所得分配政策と資源配分政策を概観し、家賃統制政策の影響を理解する。	60分
9	住宅政策②（需要側と供給側の住宅政策）	配布資料	公共住宅政策、所得移転・家賃補助政策、持ち家助成政策、人口流入抑制政策、都市再開発政策の概要を知り、その影響を理解する。	60分
10	住宅政策③（日本の住宅政策）	配布資料	家賃統制令と借地借家法、公営・公団住宅政策、持ち家助成政策の概要を知り、その影響を理解する。課題の提出。	90分
11	交通問題①（日本の都市交通）	配布資料	日本の都市交通の問題を「大都市交通センサス」からのデータをもとに概観する。	60分
12	交通問題②（交通手段選択）	配布資料	交通手段の選択と需要についてモデルを把握し、交差弾力性が影響する度合いを理解する。	60分
13	交通問題③（交通混雑の分析）	配布資料	市場均衡と最適交通量の決定メカニズムを理解し、混雑解消方法を検討する。課題の提出。	90分
14	費用便益分析①（費用便益分析）	配布資料	割引現在価値の考え方を理解したうえで、純便益法と費用便益比法の違いを把握する。	60分
15	費用便益分析②（限界費用原理とフルコスト原理）	配布資料	限界費用原理とフルコスト原理の考え方の違いを理解し、その運用と留意点を把握する。課題の提出。	90分

⑪ アクティブラーニングについて				
知識定着・確認型 AL を採用する。毎回の講義で質問感想シートを配布し、次の講義の最初にそれに対する解説を行い、学生の理解度を高めていく。				

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
前職の民間シンクタンクでは、「整備新幹線の経済効果分析」「道路整備の効果と評価に関する調査」「公共投資の九州地域経済に与えるインパクト分析」などの調査研究活動に従事してきた。また、「長岡市総合計画策定委員会」「長岡市都市計画マスタープラン策定委員会」「長岡版広域道路ビジョン懇談会」「長岡市住宅政策マスタープラン改定検討会議」「地域資源発信拠点整備検討委員会」などの委員を歴任している。
実務経験と授業科目との関連性
シンクタンクにおける経験や審議会の委員の経験から、各テーマについて多くの具体例を説明できる。とりわけ、総合計画や都市マスタープランを題材にした長岡市の現状紹介、「交通問題」や「費用便益分析」においては実務でも同様の調査を多く行ってきており、その経験を踏まえた解説を行っていく。